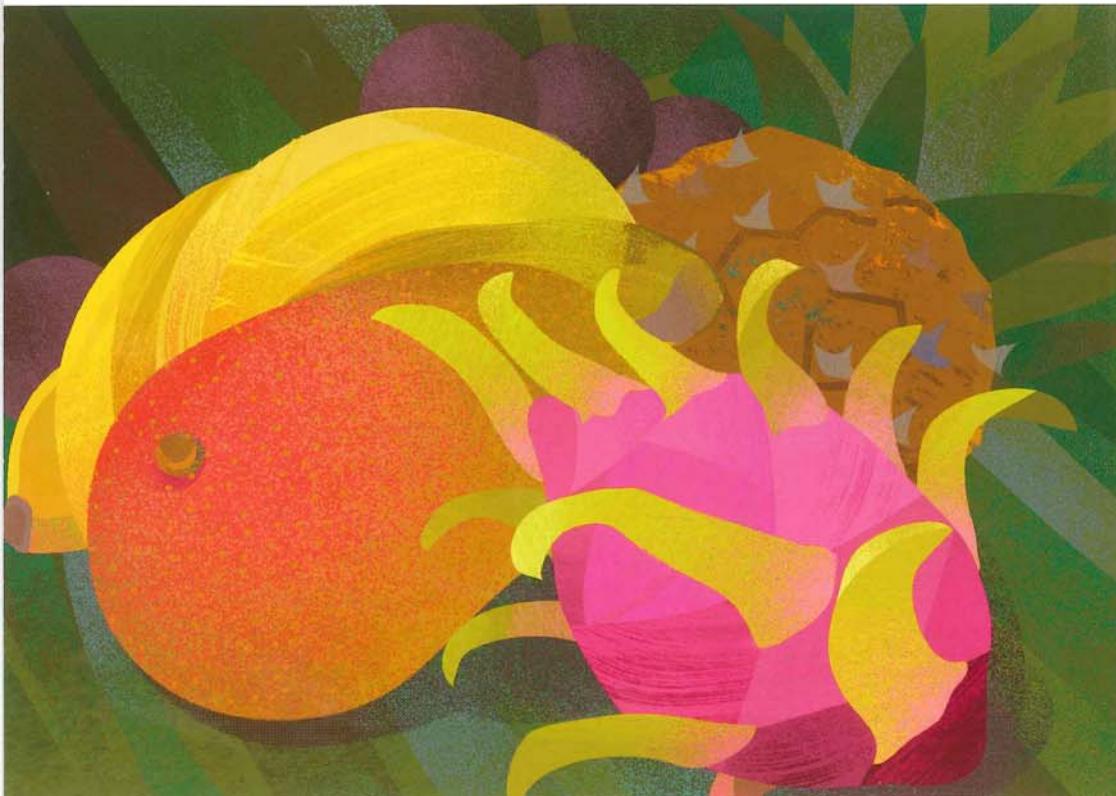


# 市政

特集

## 消防団の活性化で 地域防災力を増す

市政ルポ  
高松市／17の地域拠点が多核的に連携  
創造性に満ちた瀬戸の都



全国市長会

8

August 2014  
vol.63

ISSN4589-1016 運営七四五二号 平成二十六年八月一日(毎日一回)日発行(月曜日) 稲和二十七年十一月八日 第二回編集物認可



公益財団法人  
日本都市センター

## 都市と自治の未来を考え 自治体の皆様を応援します。

日本都市センターは全国市長会と連携し、  
行政財運向上のため各地から派遣された  
自治体職員と共に調査研究事業を行っています。

### これからの研修事業等

- 第5回都市調査研究グランプリ(CR-1グランプリ)  
(詳細はホームページをご参照ください)
- 第14回市長フォーラム(11月12日開催)
- 第16回都市経営セミナー(7月18日開催)
- 第17回都市政策研究交流会(8月22日開催)
- 第18回都市政策研究交流会(10月開催予定)
- 都市調査研究交流会(2015年2月開催予定)

### 日本都市センター メールマガジン

月1回(毎月20日配信)ご登録はホームページから  
<http://www.toshi.or.jp/>

### 平成26年度 主な調査研究事業

- 都市分権政策センター
- 都市自治体における組織内分権・広域連携に関する調査研究
- 国のかたちとコミュニティを考える市長の会
- 分権型社会を支える地域経済財政システム研究会
- 各地方自治制度とその運用についての調査研究
- 都市自治体行政の専門性に関する調査研究  
(医療制度改革と都市自治体の保健事業における役割)
- 地域再生・コミュニティに関する調査研究
- 都市自治体における空き家対策に関する調査研究
- 都市自治体における地域公共交通のあり方に関する調査研究
- 東日本大震災後の都市自治体の復興に関する調査研究

### 主な刊行物・ブックレット

- 平成23年度以降の刊行物(◎を除く)は、当センターホームページより全文を無料でダウンロードできます
- 「自治体の予算編成改革－新たな潮流と手法の効果」  
【株】ぎょうせいより刊行】
  - 「地域公務員になろう－今日からあなたも地域デビュー！」  
【株】ぎょうせいより刊行】
  - 「都市とガバナンス 第20号」
  - 「都市とガバナンス 第21号」
  - 「東日本大震災からの経済復興と都市自治体財政の課題」
  - 「生活困窮者自立支援・生活保護に関する  
都市自治体の役割と地域社会との連携」
  - 「地域コミュニティと行政の新しい関係づくり」
  - 「被災自治体における住民の意思反映」
  - 「自治体の風評被害対応～東日本大震災の事例～」
  - 「都市自治体におけるファシリティマネジメントの展望」
  - 「第16回 国のかたちとコミュニティを考える市長の会  
『生活困窮者支援と都市自治体の役割』」
  - 「シティプロモーションによる地域づくり  
第14回都市政策研究交流会」
  - 「生活困窮者支援とそのあり方  
第15回都市政策研究交流会」
  - 「次世代へつなぐ農林水産業 第15回都市経営セミナー」

■公益財団法人日本都市センター

〒102-0093 千代田区平河町2-4-1  
TEL:03(5216)8771 FAX:03(3263)4059  
<http://www.toshi.or.jp> E-mail:labo@toshi.or.jp

発行所 公益財団法人 全国市長会館

Vol.63 AUGUST 定価450円

(香川県)

# 17の地域拠点が多核的に連携 創造性に満ちた瀬戸の都

## 多核連携型コンパクト・エコシティを目指して

近年、市街地拡散の歴止めを共通課題とする全国の地方都市では、コンパクトなまちづくり（コンパクトシティ）を積極的に進めている。その目指すところは、中心市街地の活性化と人口の都心回帰だろう。加えて、都市経営の効率化という観点から見ても、コンパクトなまちづくりは有効な取り組みに違いない。

実際、平成18年の都市計画法および中心市街地活性化法の改正などの効果も相まって、商店街の振興をはじめとする中心市街地の活性化については、各地で成果が報告されてきている。中でも今回取材させていただいた香川県高松市における、丸亀町商店街をはじめとする中央商店街（総延長約2.7km）に渡つて連係する8つの商店街の総称）の活性化は、全国でもまれに見るほどの成功事例の一つと



「四国四大まつり」の一つ「高松まつり」(今年で49回目)



境にふさわしい快適で暮らしやすいまちづくりを実現する。それらの多核的な拠点を公共交通や自転車などの環境にやさしい交通手段で結び、有機的な回遊性を生じさせる。端的にいえばそのようなまちづくりを目指すための計画です」

そう大西市長が語るよう、高松市の多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画では、市内17カ所の集約拠点が設定されている。四



「瀬戸内国際芸術祭」の会場になり「アートの島」としても人気上昇中の「女木島」(上)と「男木島」(下)



お濠が海と繋がっており、タイやボラも棲息する「玉藻公園(高松城跡)」

国の拠点都市にふさわしい広域的な拠点性を強化する拠点を「広域交流拠点」、地域の特性にふさわしい一定規模以上の商業・医療・産業環境や行政サービス機能を確保する「地域交流拠点」、日常生活に欠くことのできない各種サービス機能を提供する「生活交流拠点」が置かれており、それぞれに拠点性を発揮することが期待されている。

続けて、大西市長は「多核連携型コンパクト・エコシティ」という都市構造の実現を目指すだけでなく、それにふさわしい都市景観や環境美化を伴う、美しいまちづくりを実現したいと考えました」とも述べる。

事実、そのための準備として高松市では平成21年12月に「美しいまちづくり条例」を、同23年3月には景観施策の指針としての「美しいまちづくり基本計画」を、同24年3月には景観法に基づく「景観計画」をそれぞれ策定している。

いえるだろう。

実際に、コンパクトシティの実現を図る上において、商店街を核とする魅力的な中心市街地の存在は不可欠だ。その意味でも官民が連携して商店街を振興し、中心市街地の活性化を実現した高松市の取り組みが、全国から注目を集めるのは当然ともいえる。

しかし都市はやはり生き物であって、中心市街地の活性化のみに焦点を絞った施策を進めて、都市の健全（持続可能）な発展は望めない。都市機能全体が有機的に循環するようになつて初めて、都市全体の活性化は実現する。

平成19年5月に就任した大西秀人・高松市長（現在2期目）が、翌20年度策定の高松市都市計画マスタープランで基本的な考え方を打ち出し、同25年2月に策定した「多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画」は、そのことを十分に意識したまちづくりのプランだ。合併後の地域振興など、高松市が抱える独自の都市的課題やそこに至るまでの歴史的



大西秀人  
高松市長

# 高松市

市政ルボ

(香川県)



JR高松駅と高松港に隣接する高松市のシンボルゾーン(シンポート高松)



商店街活性化の象徴である丸亀町商店街A街区のクリスタルドーム



丸亀町商店街G街区でのイベントの様子

JR高松駅と高松港に隣接する高松市のシンボルゾーン(シンポート高松)。その後に高松市から流出した人口の受け入れ先だった周辺の町のいくつかが、平成17年・18年の合併で高松市に編入されることになり、新たな生活拠点が高松市に加わる。大西市長の就任(平成19年)はまさにその時期だった。

「市街化調整区域の線引き廃止は、比較的安価な市内住宅地の提供を可能にさせた反面、全体的には思ったほどの成果は上がらず、結果論ではありますが、むしろ市域のさらなる拡散を助長する一因ともなったといえるでしょう」(大西市長)

後に高松市から流出した人口の受け入れ先だった周辺の町のいくつかが、平成17年・18年の合併で高松市に編入されることになり、新たな生活拠点が高松市に加わる。大西市長の就任(平成19年)はまさにその時期だった。

JR高松駅と高松港に隣接する高松市のシンボルゾーン(シンポート高松)。その後に高松市から流出した人口の受け入れ先だった周辺の町のいくつかが、平成17年・18年の合併で高松市に編入されることになり、新たな生活拠点が高松市に加わる。大西市長の就任(平成19年)はまさにその時期だった。

多核連携型コンパクト・エコシティは、もとより一朝一夕に実現するまちづくり計画ではない。長い時間をかけて少しづつ構築していくものであり、細かな点では今後さまざまな部分で見直しもされていくだろう。しかし、高松市にとって、まちづくりの全体的な方向性を拡散型から集約型へと初めて明確に位置付けた「多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画」策定の意義は大きい。



美しい瀬戸内海を堪能できる「サンポート高松トライアスロン大会」

多核連携型コンパクト・エコシティの推進を図るには、これ以上ないタイミングだったといえるだろう。

## 北部地域は銀座、南部地域は下北沢

昭和63年に瀬戸大橋が開通するまで、まだぐ手立てとして平成16年に実施されたのが、都市計画法改正(平成12年)に基づく、都市計画の線引き廃止だったが、人口流出に歯止めが掛からなかつた。

昭和63年に瀬戸大橋が開通するまで、まだぐ手立てとして平成16年に実施されたのが、都市計画法改正(平成12年)に基づく、都市計画の線引き廃止だったが、人口流出に歯止めが掛からなかつた。

多核連携型コンパクト・エコシティの推進を図るには、これ以上ないタイミングだったといえるだろう。

多核連携型コンパクト・エコシティの推進を図るには、これ以上ないタイミングだったといえるだろう。

多核連携型コンパクト・エコシティの推進を図るには、これ以上ないタイミングだったといえるだろう。

多核連携型コンパクト・エコシティの推進を図るには、これ以上ないタイミングだったといえるだろう。

そのため本州に本社を持つ有力企業の多くが高松市に四国支店を置き、本州から四国に渡る人、四国から本州に渡る人のほとんどが高松市を経由した。高松市は文字通り、四国経済の中心地だった。総延長約2・7kmという全国有数の規模を誇る中央商店街が構築され、いったのも、そのような背景による部分が大きい。

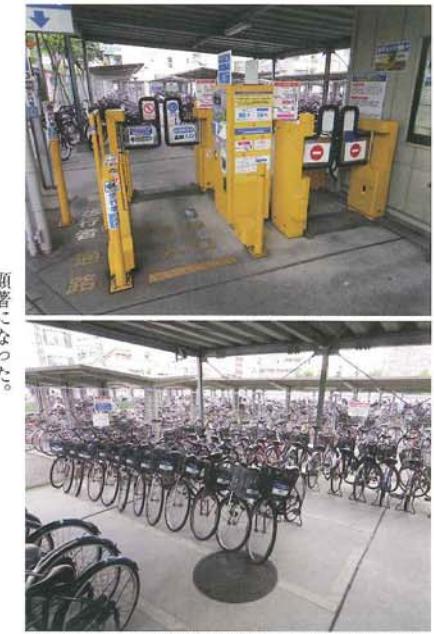
そうした長年にわたるアドバンテージは瀬戸大橋の開通によって霧消する。特に瀬戸大橋の開通に伴う中央商店街への打撃は大きかった。大手資本による県内への出店ラッシュ、大規模駐車場を有する量販店などによる市郊外への商圈拡大が進んだ。平成10年の明石海峡大橋の開通はこれに追い打ちを掛けた。買い物客が大阪や神戸に流出する傾向があった。買い物客が大阪や神戸に流出する傾向があつた。買い物客が大阪や神戸に流出する傾向があつた。買い物客が大阪や神戸に流出する傾向があつた。

ところが、中心市街地の空洞化現象を防ぐことはできなかつた。車社会の進展も相まって郊外住宅地の開発が進み、90年代以降、市域は拡散する一方だつた。さらに車社会の進展は、地価が高い高松市内から、通勤圏にあつて地価が低い周辺町への人口流出現象を呼ぶ。その過程において、こうした現象を防めた。

ところが、中心市街地の空洞化現象を防ぐことはできなかつた。車社会の進展も相まって郊外住宅地の開発が進み、90年代以降、市域は拡散する一方だつた。さらに車社会の進展は、地価が高い高松市内から、通勤圏にあつて地価が低い周辺町への人口流出現象を呼ぶ。その過程において、こうした現象を防めた。

高松丸亀町まちづくり株式会社を設立し、民間主導型の再開発事業を進めてきた。南北に長い商店街をAからGまで7つの街区に区分し、例えばA街区は高級ブティック街にするなど、各街区に個性を持たせ、全体でバラエティ豊かなショッピングモールの形成を図るなどの努力を重ねてきた。全国から観察に訪れるようになつたのも、丸亀町商店街のこうした計画的な再開発事業の成功によるところが大きく、都会的な雰囲気を持つた兵庫町、片原町の商店街と合わせた北部地域は注目を集めている。

驚くのは通行する人々のマナーの良さ。例えば丸亀町商店街の自転車走行は禁止(降りて押していくのはOK)なのだが、9割以上はルールを守っているという。たまに自転車



各サイクルポートで乗り降り自由な先進的レンタサイクルシステム

# 高松市

市政ルポ

(香川県)



昨年春から秋まで108日間開催された「瀬戸内国際芸術祭2013」には世界中から関係者、ファンが高松を訪問

ある。  
ちなみに、この「創造都市」とは創造性に満ちた都市、とりわけ文化面における活力に優れ、ブランド力のある都市のことと言。また、ユネスコの創造都市ネットワークには、現在、日本では神戸市、名古屋市、金沢市、札幌市が認定を受けている。

創造都市推進局は前出の産業振興課のは、農林水産課、土地改良課、地籍調査室、競輪場事業課、中央卸売市場業務課、観光交流課、都市交流室、文化芸術振興課、文化財課、スポーツ振興課、美術館美術課で構成されている。創造都市推進局におけるこれらの多彩な課の構成にこそ、大西市長の目指す創

ては、文化芸術などの持つ創造性を生かしながら、農業なども含めた産業振興や地域活性化、コンバクトで美しいまちづくりなど、個々の心の都市のことです」

「私のイメージする高松らしい創造都市とは、著書『高松クリエイティブ・インノベーション』(ぎょうせい)において、次のように書いています。

「私のイメージする高松らしい創造都市とは、文化芸術などの持つ創造性を生かしながら、農業なども含めた産業振興や地域活性化、コンバクトで美しいまちづくりなど、個々の心の都市のことです」

造都市の性格が如実に現れている。大西市長は著書『高松クリエイティブ・インノベーション』(ぎょうせい)において、次のように書いています。

「私のイメージする高松らしい創造都市とは、文化芸術などの持つ創造性を生かしながら、農業なども含めた産業振興や地域活性化、コンバクトで美しいまちづくりなど、個々の心の都市のことです」

折しも今年は瀬戸内国際芸術祭の成功によつて以来、積極的な情報発信やユニークなイベントを連発して飛躍的に集客力が伸びている。例えば今月3月に開催された第5回サヌキロックコロシアムには63組のアーティストが商店街周辺7会場でライブ演奏を行い、県内外から1万人以上の若者たちが集まつた(毎回1万人×2万人の動員実績)。また、コスプレやアニメソングのカラオケ大会などで盛り上がる「キヤラフェス」にも毎回1万人から2万人の観客が集まるという。それ以外にも大人向けから子ども向けまでさまざまなイベントが随時行われているほか、商店街振興組合と行政の連携による仕掛けで、今年度以降、さまざまな活性化事業(商店街の空き店舗上階を活用した「街なか居住事業」、高齢者の交流事業、託児サービスや情報交換などの子育てサポート事業、地域の高齢者が運営する「おばあちゃん食堂」ほか)が実施される予定だ。

これら一連のイベントや事業計画の立案を商店街振興組合とともに推進している、高松市創造都市推進局産業振興課の中下利行さんは「北部3町を銀座に例えれば、南部3町は下北沢を意識しています」と語る。中下さんはさらに、「今後は若手経営者の人材育成とともに、北部地域と南部地域の個性の違いを生かしながら、回遊性が生じるような各種のイベントや仕掛けを実施していくみたい」とも張り切る。

実は中下さんは30年以上に渡り、東京で音楽を意識しています」と語る。中下さんは「北部3町を銀座に例えれば、南部3町は

ともに、北部地域と南部地域の個性の違いを生かしながら、回遊性が生じるような各種のイベントや仕掛けを実施していくみたい」とも張り切る。

下北沢を意識しています」と語る。中下さんはさらに、「今後は若手経営者の人材育成とともに、北部地域と南部地域の個性の違いを生かしながら、回遊性が生じるような各種のイベントや仕掛けを実施していくみたい」とも張り切る。

中下さんは30年以上に渡り、東京で音楽を意識しています」と語る。中下さんは「北部3町を銀座に例えれば、南部3町は

ともに、北部地域と南部地域の個性の違いを生かしながら、回遊性が生じるような各種のイベントや仕掛けを実施していくみたい」とも張り切る。

中下さんは30年以上に渡り、東京で音楽を意識しています」と語る。中下さんは「北部3町を銀座に例えれば、南部3町は

ともに、北部地域と南部地域の個性の違いを生かしながら、回遊性が生じるような各種のイベントや仕掛けを実施していくみたい」とも張り切る。

中下さんは30年以上に渡り、東京で音楽を意識しています」と語る。中下さんは「北部3町を銀座に例えれば、南部3町は

ともに、北部地域と南部地域の個性の違いを生かしながら、回遊性が生じるような各種のイベントや仕掛けを実施していくみたい」とも張り切る。

中下さんは30年以上に渡り、東京で音楽を意識しています」と語る。中下さんは「北部3町を銀座に例えれば、南部3町は

ともに、北部地域と南部地域の個性の違いを生かしながら、回遊性が生じるような各種のイベントや仕掛けを実施していくみたい」とも張り切る。

## すべてに創造性の感じられる まちづくり

ところで南部3町の活性化を手掛ける中下さんが所属する産業振興課は創造都市推進局の傘下にある。創造都市推進局は平成24年度の機構改革で誕生した部署だが、高松市が効果的なシティプロモーションを推進するための中核的かつ先進的な役割を担う組織である。

高松市の名前は国際的なアートシーンで大きな話題となつた。紙数の関係で詳しく紹介できないが、瀬戸内国際芸術祭の運営に携わったNPO法人の提案により始まつた若手アーティスト(芸術士)の幼稚園・保育園への派遣事業など(クリエイティブ・チルドレン・プロジェクト)、高松市の創造性あるまちづくり事業は、幼少期からの創造性あふれる人材育成にまで幅を広げている。

高松市が推進する多核連携型コンパクト・エコシティおよび創造都市推進事業の、表裏一体となつた今後の取り組みを引き続き注目していきたい。



(取材・文 遠藤 隆／取材日平成26年6月23日)

国際的にも評価の高い「高松国際ピアノコンクール」



幼稚園・保育園で子どもたちがアーティスト(芸術士)とともにさまざまな表現活動を行なう芸術士派遣事業



主に南部3町の商店街の活性化と情報発信の拠点「ブリーザーズスクエア」

記念事業、第4回日仏自治体交流会議(10月)など創造都市推進局が管轄するビッグイベントが多い。また、2010年、2013年に開催された瀬戸内国際芸術祭の成功によつて